

# フューチャーフラワー基金 第6期報告会

平成24年11月25日(日)、仙台市宮城野区にて日本・ネパール文化交流倶楽部「フューチャーフラワー基金第6期」の報告会が開かれました。当日は日本人11名、ネパール人留学生4名が集まり、司会は交流倶楽部会員のSeti(逢坂あゆみさん)が担当しました。ネパールのミルクティーも振舞われ、和やかな雰囲気です。会が進められました。

## ● 開会と代表の挨拶:

サンジブ代表の挨拶では、今回(第6期)の支援者の方は大半が県外にお住まいで、残念ながら今日の報告会は少人数ではあるが、わざわざ時間を作って集まって下さったことへの感謝の言葉が述べられました。

● **参加者自己紹介**では、それぞれ支援を知ったきっかけやネパールとの関わり、交流倶楽部への思いなどが語られました。

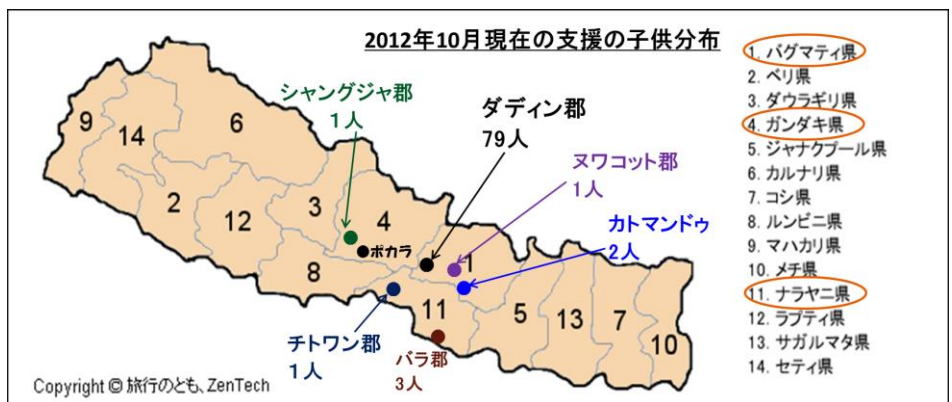
## ● 目的の三本柱:

倶楽部の目的の柱は『交流』『支援』『理解』の3つ。仙台を拠点に開かれる留学生を交えた交流イベント。フューチャーフラワー基金を主とした「顔の見える支援」。そして日本とネパールの相互理解、及び倶楽部のメンバー同士の理解を深めることにより、新たな交流と支援が生まれます。これらを報告会で確認し、参加者ひとりひとりが主役となって作り上げていくものです。

## ● 鈴木涼子さんによる マイディ村出張報告

交流倶楽部第1回交流ツアー(2007年)参加をきっかけに、サンジブ代表のアシスタントとしてフューチャーフラワー基金の立ち上げ(2009年)に関わり続けている鈴木涼さんが、今回、第8回交流ツアーとフューチャーフラワー基金第6期の面接の為にネパールに出張した時の様子を報告してくださいました。

まず、ツアーには3名の日本人支援者が参



北海道	1
岩手県	2
宮城県	36
山形県	3
東京都	3
石川県	1
埼玉県	3
神奈川県	1
愛知県	5
三重県	2
大阪府	5
福岡県	3
沖縄県	2
13都道府県	67名

加され、ダディン郡ササ村で子供とピクニックで交流を楽しんだそうです。雨天の中子供たちが待っていてくれ、特設されたテントの中で旅行会社の皆さんの協力も得て、子供たちとの対面をとて喜ぶ様子が写真と共に報告されました。面接はツアー終了後、9月23日(日)、カトマンドゥを出発し、ササ村から徒歩でマイディ村へ、26日(水)までの3日間の滞在でした。

現在支援者は67名、子供は87名に広がり、日本では13都道府県、ネパールではダディン郡を中心に5つの郡に支援の輪が広がっています(「歩み」Vol.2、地図、左表参照)。

カトマンドゥからマイディ村までの道のりは雨季の徒歩の場合と、乾季で車の場合とあまり所要時間(10時間程)は変わらないこと、土砂崩れなどの難所もありましたが徒歩ならではの美しい田園の景色や、ミネラル豊富な湧き水などを楽しんでいけたこと、村人から水牛のミルクで歓迎されたことなどが写真と共に説明されました(別紙レポート参照)。

子供レポートは対象となる子供の家庭の状況を詳しく聞きだし、英語で記録、文化的背景なども考慮しながら誤解を招かないような日本語表現に翻訳し、作成されています。例えばカースト制度は、現在違法になっていますがまだ農村部には残っており、村人は社会の変化に取り残されそうになりつつある低カーストの家庭を紹介してくれたり、柔軟に対応し協力してくれていることに今回改めて気づいたそうです。将来の夢に関する質問では、テレビも教育も無い子供たちにと

## 支援者(日本)の分布表

っては「教師」が一番身近で唯一想像できる職業であり、パイロットや医者には「偉い人」というイメージでしかないそうです。農業は今を生きるための自給自足の日常であり、無教育の結果であり、教育は、自由に職業を選択できるようになる手段ということさえ、低カーストの村人は理解できないということが語られました。

支援対象に選ばれる子供たちの家庭に共通する問題としては、事故・死亡・失踪に因る父親(稼ぎ頭)又は母親の不在、早すぎる結婚、男子を好む傾向があるため子沢山になってしまう、親の教育に関する無知・無関心、圧倒的に低い女性の地位など

があります。そんな環境の中でも、無いことよりもあることに重点を置き、どんなに貧しくても貴重なミルクやお肉、野菜などを分けてもらったことに本当のネパールならではの「ギブ・アンド・ギブ」の精神を感じたそうです。かわいそうと思わず、私たちの支援のお陰で一人でも幸せになっていることに着目し、一年間でも良いので支援を続けて欲しい、そして是非本当のネパールの自然と人々の温かさを感じにマイディ村を訪れて欲しい、と締めくくられました。

### ● 留学生マニ君のスピーチ:

2年前に日本に来ましてアルバイト、日本語学校、交流倶楽部にも参加して生きています。母国の子供たちを支援してくださってとてもありがたい気持ちです。私も母国を愛していますので、何かしたいですけどまだ何も出来ません。ですのでこういう日本の支援者に心から有難いです。

Q. 夢は何ですか？

A. 「昔は良く分からずパイロットになりたいとか思っていました、今は人の役に立つ仕事をしたいです。難しいですが難しいことほど日本で勉強して経験もして、みんなが幸せに生活できるように頑張りたいです」

### ●今回(第6期)選ばれた子供レポートの配布:

鈴木さんが、今回選出された13名の子供のそれぞれの写真と状況の説明がありました。参加している支援者にレポート、お手紙、成長の写真等が直接手渡されました。

☆サンジブ代表のコメント:

「村や子供たちの報告を見ると、哀れに見えるかもしれませんが、どうぞ可哀相がらないで下さい。皆さんの支援で少しでもこの子供たちは幸せです。お金持ちじゃなくても、支援は出来ます。ネパール人にとっては大きなお金ですが、日本人には“自分が出来ることをしている”と思ってもらいたい。だから見返りは求めない。見返りを求めたら幸せになれない。届けられるということは、ハッピーになれるということ。自分が助けた分は自分も幸せになれます。『Give and Give』というのは“自分があげられるものをあげて、お互いが幸せになれる”ということを目指すものです。」

### ●今後のこと:NPO法人化について、サンジブ代表から説明がありました。

お陰さまで、支援を受けている子供たちはもうすぐ100人に手が届きそうです。来春は基金設立以来初の卒業生が1名。NPO法人となった方が企業献金を受けやすく、税金免除の制度も出来、もっと広く公表しながら透明な活動を続けられると思います。もちろん私ひとりでは出来ないの、皆さんにも是非協力して欲しいと思います。前回からお話しています「交流の家」は、今後卒業する学生の就職が難しい場合の受け皿として、日本の退職者などによる職業訓練の場とも活用したいと考えている。イメージアップの為に社会貢献したい企業等との協力を考えていますので、出来れば紹介していただけるとありがたい。

そして是非時間を作って、ネパールの自然の「たのしんでなんぼ」を実行しましょう。一対一の支援は続きます。興味ある人がいれば紹介してください。人から頼まれたという義務感ではなく、心からやりたいと思っていただければ、広げていってほしい。

●その他連絡 ・倶楽部会報誌『歩み』は、今回第2号を発行しましたが、内容も回数も増やしていきたいと思っていますので編集を手伝ってくださる人を募集しています。是非ご連絡お願いします。・来春ツアーは3月ごろ予定。・交流イベントアイデア募集中です。

### 【参加した小野さんより感想が寄せられました】

今回一人の女の子の里親としてFF基金に参加することになりました。はじめは「金銭だけの支援は帰って無責任になってしまうのでは」と思っていました。それは私が、この基金のこと、そしてネパールの子供たちの生活について何も知らなかったからです。報告会のお話やネパール人学生の皆さんのお話を聞くうちに、支援がもたらす可能性の大きさを感ずるようになりました。いざ里子のSちゃんの写真を手にすると、不思議と暖かな気持ちになりました。思いやりを届ける相手がいることは、私にとっても大きな支えになるのだらうと思います。

☆ご参加ありがとうございました。今後も一緒に成長を見守っていきましょう。宜しく願いいたします。(スタッフより)